

一方、『万葉集』には言霊思想というものがあります。「靈」の字は巫女が一生懸命「雨降れ」と念ずると雨が降ると書くように、言葉には霊的な力があると言うのです。中国の文化も日本の文化も言葉にはスピリチュアルな力があると考えられています。しかし、日本の文化では、言葉は一度口に出してしまうと取り返しのつかないものとなると考えます。

私は、日中文化の大きな違いの1つは、中国の文化は言葉で国を治めることができると楽観的であり、日本の文化は物事をはっきり言う事に対して慎重であることと考えます。例えば、芭蕉の俳句「物言えば唇寒し秋の風」、寅さんの「それを言っちゃあおしめえよ」、三船敏郎の「男は黙ってサッポロビール」、また、CMのトミー・リー・ジョーンズの「ただ、この惑星では無口なほうがもてる」などがあると思います。

#### 4 社会背景からの文化の違い

日本語はおもしろい言葉で、「妻」という漢字に「にすい」をつければ「凄い」になります。幾つかのキーワードを見てみましょう。「人間」という言葉は中国になく、中国語は「人(レン)」だけです。つまり「人間」には、人と人の「間」があり、それは礼儀、あるいは社会性を表しているのでしょうか、その間が無ければ「間抜け」となります。つまり人間というのはその周り、世間の一部であるという事です。また、和辻哲郎(1889-1960)は著書『風土—人間学的考察』(1935)で、哲学の中心的概念を「間柄」として述べています。

そして、「分」という言葉も重要です。例えば「自分」、それも中国語にはなく、あるのは「自己」です。「自己」と聞くと、日本では「自

己中心的」等と使われるためあまり良いイメージではないかもしれませんが。一方、「自分」というのは、その周りと深い関係があつて、その周りの一部“分”が「自分」であるという意味を持ちます。

また、中国語で自分という意味で最も一般的に使われている「我」という字ですが、それは戦闘的な言葉で、手に武器を持つという意味を持ちます。一方18世紀から日本の女性が使ってきた「私」は、自分のことをよく理解しており、他の人に対しては謙遜が出来るような意味を持っています。

そして、コミュニケーションの違いができたのは、2,500年程前の中国の戦国時代、何百年にわたって20国ほどの国々が争い、国の群集に向かって自分の政治コンセプトを主張する哲学者や政治家が出てきました。様々なコンセプトがあり、人を説得する能力を持たないと競争できませんでした。

中国とは違い、日本では「禅」の様な優しい仏教文化が中心となりました。「禅」では言葉は重要ではなく、修行者が悟りを開くための手段である公案も議論をなくそうとするものでした。

## 5 「詩」と「科挙制度」からの社会への影響

2つの分野で両国の社会や考え方に大きな影響を及ぼしたものがあります。1つは「詩」、もう1つは「科挙」です。

まず「詩」についてですが、日本文化、中国文化の両方で詩はとても重要です。中国の詩は人間と社会を重視します。中国の『詩経』という2,600～3,000年前にできた詩集は、孔子が編集しましたが、4,000位の詩経の詩から男女関係、愛を歌う詩を全部省き305の詩を選んで、編集し、個人と国の関係を書くようにしました。これに対して日本は

『源氏物語』のように男女の愛、小説に出る人物の精神、心理的な考え方を書いています。『源氏物語』は、世界文学で最初のモダンな小説だと言われていています。ヨーロッパでは、そのような小説は19世紀まで出てきませんし、中国にも男女の愛を書いた小説はありましたが、非公式的でプライベートの場で読むものでした。

もう1つは「科挙制度」です。中国では唐時代から役人の採用試験があり、そのすぐ後、韓国にもできました。日本にはそのような制度はありませんでした。その理由は、専門家の中で様々な説がありますが、1つは、中国は巨大な国であり、政治、国家管理や国家公務員の仕事ができる、有能な人材を探すためということです。科挙で成功する人は、ごく一部で、多くの人は一生涯に何回挑戦しても合格しません。しかしながら、科挙のために論文を書き、議論するような知識人が地方にも現れます。一方、日本は小さな国で、人材を探すのは容易でしたので、そうした制度はありませんでした。

日本には「腹芸」があります。松本道弘(1940-)著の英語版『腹芸』(1988)という本には、「腹芸」は定義上、「debate(議論)」とは全く反対のものであり、「Don't tell the truth, but don't tell lies. (本当のことを言うな。でも嘘もつくな)」、「Don't define yourself. (自分のことを定義するな)」、「Don't say "no". (ノーと言うな)」、「Don't justify yourself. (自分のことを正当化するな)」、「Don't attract attention to yourself. (皆さんの注目を引くな)」、「Don't be direct. (直接的にものを言わない)」、「Don't ask why. (なぜ、どうしてと聞くな)」等と述べられており、日本人のコミュニケーションの特徴を捉えていると思います。

数年前中国で李兆忠著の『曖昧的日本人』(2005)という本を購入